KSKQ
京橋 おかげさま 通心 15
正真会
『はたらく』きょうばし 就労移行支援事業所
2021年 6月
加光『くらす』生活訓練施設

社会福祉法人とはなにか？
“たった一人の声”に耳を傾ける

寺村　肇

全国に20,645法人が存在する中で、大阪には全国トップとなる1,191法人があります。私たち正真会が主たる事業領域としている「障害福祉」に従事する法人は全体の15.6%と最も少なく、「児童福祉(36.7%)」「高齢者福祉(28.5%)」「その他の福祉（19.2%)」などの割合が大多数となっています。

多様化する社会の中で、地域の様々な福祉ニーズにきめ細かく対応するサービスを提供し続けるためには、社会福祉法人にも経営的視点やその事業の継続性・安定性が重要視されます。全国統計によると、年間１億円以上の事業規模を誇る法人は全体の82.5%存在し、10億円を超える法人も全体の10.1%存在します。日本の企業数が約386万社ある中で、年商１億円を超える企業は19.1%であることを考えると、ある種独特な市場とも言えます。

社会福祉のそもそもの目的は、色々な表現はあるにしても「社会全体の幸せを追求すること」という言葉に集約されるわけですが、その社会を構成するのは、他に替えの利かないたった一人の幸せです。**“全体の幸せ”**と**“たった一人の幸せ”**を横並べにしたとき、**“全員は無理でも大多数が幸せならば良い”**という多数決の論理にいつのまにか支配されてしまって**“少数の不幸はやむなし”**と逆解釈すると、とても危険な思想へとつながってしまいます。

これから国は、来るべき小さな社会に対応するスマートな社会福祉の再構築を目指し、社会福祉法人の統廃合を積極的に促進していきます。全てが統合されていく社会福祉情勢の中で、前述の危険性を踏まえつつ、たった一人の声に耳を傾けることのできる正真会でありたいと思います。

就労移行支援事業所 きょうばし

生活訓練施設 加光

まだまだ、これから
困難があるからこそ

管理者　寺村　肇

いつもお世話になり有難うございます。3度目の緊急事態宣言を受けて、連日の様にニュースが伝える緊張感とは裏腹に、街並みの雰囲気はどこかボンヤリとしていて、みんながそれを見ないように気遣い合っているように感じます。

ちょうど去年の今頃は、初めての緊急事態宣言とその解除を受けて、社会全体がその在り方を問うた時期でしたし、私自身の性根を問い直す時期でもありました。そんな混沌のさなか、初めて開催した企業見学会。出会う社員の皆さんや経営者自身の熱量に号泣した事は（その後もちょいちょい泣いていますが…）、今も忘れられません。

少々オーバーな話にはなりますが、人間はこれまで数多くの困難を乗り越え、今日の発展を遂げました。それは「困難を制圧し、克服する」といった好戦的なものではなく、「受け入れ、分かち合い、共存する」という選択の連続だったと想像します。どのような境遇にあっても、自分の未来に夢を持ち、今日一日を精一杯に生きること。そして、出会う誰かにとって、今日が最良の一日であることを願い、声を掛け合う。この人間らしい営みを、ここ京橋の地から実践し、発信し続けて行きたいと思います。

「困難があるからって諦めなくていい。」本誌の中ほどに登場してくれている鳥屋さんから頂いた、グッとくるコトバです。「何を勝手にやった気になって諦めとんねん！」今の僕にはそう聞こえます。

一九九一年九月三日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価五十円

正真会オープンキャンパス

正真会の良さを知る絶好の機会に
“働き”と“暮らし”を深める場所

Let's Go!

正真会オープンキャンパスは、きょうばし・加光の見学会を合体させた企画となります。「"働き"と"暮らし"を一体的に支援する」という、正真会の良さを皆様へ存分に知っていただける絶好の機会となっております。"働き"を支える"暮らし"があり、"暮らし"を彩るための"働き"がある。切っても切り離せない2つのテーマを一度に挑戦できる環境が、正真会にはあります。ぜひ、あなたも『正真会オープン キャンパス』にご参加下さいませ！

今月は6月10日、6月23日

毎月第2、第4木曜日
午前10：00～11：30（詳細、お申込はWebで）
www.syoushinkai.com
「正真会のできごと」をご覧ください。
＊今月は第4水曜日となっております。

正真会

法人理念
誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。
人の歩みを共に慶び、共に学び続けます。

正真会はSDGsの項目で次の持続可能な開発目標を掲げています
3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も

■編集人■（毎月発行）
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
京橋おかげさま通心 編集委員会
電 話 06-6351-8668
■制作・協力■
NPO法人 チャレンジステージ
HP：www.challesta.com
■発行人■
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2　東興ビル4階
一九九一年九月三日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価五十円

ひと　京橋の「魅力ひと」紹介

大阪市都島区桜ノ宮連合振興町会
桜宮地域活動協議会 会長
桜宮地域社会福祉協議会 会長
連合会長　**玉川　允敏 氏**

私、出身は兵庫県加古川市なのですが、これといった記憶は無いぐらい小さな頃に住んでいたようです。その後もNHKの職員だった父親の関係で、大阪、名古屋、広島、徳島、広島、大阪といった順番に関西地域をあちこち巡っています。父親が広島で被爆をしていまして、それから1年間入院し、その後に大阪や兵庫に向かったと聞いています。そんな根無し草の少年時代でしたので、小学校、中学校、高校は全て「入学と卒業が違う」なんて状況でした。大阪に入りまして、もっとも記憶が鮮明になるのは尼崎ですね。そこでしばらく住んでいます。大学に入ってから、ようやく通学路として、今の私の住まいである「京橋」の地域と触れ合うようになりました。

町会長として活動をし始めたのは、平成30年からです。日本全国にある任意の団体である「地域活動協議会」は、小学校の校区内をあらゆる面（地域住民組織・ボランティア団体・NPO・企業など）からサポートし、地域の街づくりに貢献する役割を担っています。元来の組織では国から補助金が出ているにも関わらず、町会への入会是非によって市民が享受するサポートに偏りがあるという指摘があり、新たに先の協議会が誕生したという経緯があります。言うなれば街づくりに関する事業や補助金の橋渡し役ですが、コロナ禍に入ってから街づくりに関連するあらゆるイベント・事業が激烈に収縮し、活動の規模も大きく狭まってしまっています。

きょうばしは、環状線の中でも小規模ながら人の動きの核にもなる場所です。人懐っこさのある大阪の中でも、特に人情に溢れる地域のひとつではないでしょうか。コロナ禍収束後の時代を見越して、安心・安全の街づくりを目指していきたいと思います。

“人懐っこさ”のある地域
～ 安心・安全の街を目指して ～

チャレステコラム

歯を支える歯茎の視点
原点回帰のボディケア

◆私の今年の抱負は「身体を一から鍛える」ということで、様々なボディメンテナンスを積極的に行なっています。その中でも今、真剣に取り組んでいるケアが「歯茎を鍛える」というものです。私たちは幼少時から「歯を磨く」という日常習慣はありますが、親知らずを含めて32本の歯達を支える「歯茎」には意外と注目していません。そうして歯科衛生士さん指導の下で取り組みを開始。最初は出血や痛みが伴い、一日坊主になりそうでした。しかし「きっとよくなる！」と信じて取り組んだ結果、日に日に楽になって、歯茎が引き締まり、歯もツルツル、まるで歯が喜んでいるかのようになりました。今は毎日のブラッシングが楽しみです。唾液もよく出るようになり、消化サポートにも役立ちます。歯茎という大切な相棒を疎かにしてきた今までの歯磨き習慣を大いに反省中です。〝原点回帰〟というこの視点、仕事や人生にも活かしたいものです。

NPO法人
チャレンジステージ
代表理事
山下　勇雄

スタッフ紹介

入職時期　2021・4
名　　前　林田 有佳里
担当部署　厨房
就労移行支援事業所きょうばし
職業指導員

毎日勉強、プラスのサポートへ
成長で感じる大きな喜び

栄養士として厨房業務の担当をしています。子育てが落ち着いたタイミングで、栄養士としてパートで働ける仕事を探していた時、前々から考えていた社会貢献ができそうなこちらの求人に出会いました。身内が施設に入っていまして、そこで介護職員の方の姿勢に感銘を受け、自分もその分野に行きたいという想いがありました。入職初日から利用者さんと接していて、皆さんから教えをいただいています。また、言葉の伝え方について、先輩方の姿をみながら、「こういうふうにお伝えしたらいいんだ」と毎日勉強しています。利用者さんの、昨日までは1日分の調味料しか計れなかったのが、時間内に3日分計れました、といった成長をうかがえると、とても嬉しく感じます。今後は、厨房を通じての就労支援として、適切な時間の目標設定やステップアップをしていただける環境づくりと、作業を通して仕事の楽しさや成長の喜びを感じていただけるよう、プラスのサポートをしていきたいなと思っています。

きょうばし　古川 理恵

林田さんは、すごく優しい目を持っておられる方です。また、利用者さんのことを細かくみておられます。今後も一緒に力を合わせていきたいと思います。

家族と人がやりがいに
〝活かしきる〟を大切な人たちに

ここ1週間、普段は考えなかった「やりがい」について真剣に考えてみた所、「家族と人が力になっている」という考えに至りました。大きな目標でなくても、自分にとって大切な人がいる、そういう人たちに貢献したいという想いが、仕事のやりがいに繋がって行くのだと思っています。私たちの企業理念である「活かしきる」は、「自分の行動や選択が、その大切な人たちに向けて活かしきれているかどうか」という意味もあるのではないかと、最近考え始めています。

社長・社員の「働くとは?仕事とは?」

宮脇鋼管株式会社

代表取締役
宮脇　健 氏

西日本パイプセンター
センター長
大塚 雄士 氏

http://www.miyawakikoukan.com/

祖父が中学卒業後、大阪の金物屋さんへ丁稚奉公に行ったのが、創業のキッカケです。当時社長の父親から「ちょっと仕事を手伝ってくれ」と言われて会社に行きますと、その朝礼で「彼は会社を継ぐから宜しく」と紹介されました。そういわれたら急に責任感が芽生えまして、「それならしっかりやらなあかんな」という決心がつきました。私の人生の一番の転機です。転機というと、私の弟は交通事故によってスポーツ選手の夢が潰えた人物ですが、いまは障害者支援の仕事をして幸せに暮らしています。人生も人間も本当に色々ですが、御縁によって自然と未来に繋がります。御縁を活かし、行動をしていくと、良いめぐり逢いに落ち着く。仕事も人生も、そういう希望をもってやっていけたら良いと思います。

人生は御縁があってこそ
行動から御縁へ、御縁から未来へ

イベント情報

ひと
関係機関様の「魅力びと」紹介

繋がり、分かち合う支援
障害者の望む生活に向かって

特定非営利活動法人　あるる
https://www.npo-aruru.com/

代表理事　鳥屋 利治 氏

自立生活センター「あるる」は、大阪市都島区で2001年から20年間活動を行なっている事業所です。その特徴は「障害を持っている当事者が、同じ障害を持っている仲間と繋がって、地域で生活できる環境を目指す」という点にあります。この20年間の活動で、10数名の方が地域生活へ移行されているそうです。

障害によって人生のあらゆる経験を奪われて生きていたが、それでも地域で生活をしたい――当事者様・ご家族様の想いが痛いほど分かります。そして、それが簡単では無いのも事実です。それでも1980年代、アメリカバークレー州で始まった自立生活運動が徐々に日本にも浸透をしつつあります。「社会を変える4つの基盤（日中活動・仲間づくりの場、適切な介助サービス、生活の場、相談できる人）」に注視した「あるる」の活動が続きます。

理事長を務める鳥屋さん自身が障害を抱えておられますが、それに挫けず、ひとりひとりの想いを汲み取り、広い視野と共に寄り添って支援に及んでいます。「どんな状況でも障害者の方の望む生活を諦めてはいけないと思っています」という鳥屋さんの真に迫る言葉にハッとさせられます。「抱え込む」のではなく「分かち合う」という事の大切さを学ばせて頂きました。

人と御縁
自分を理解して次の展開へ

宮脇鋼管株式会社様
http://www.miyawakikoukan.com/

宮脇社長のご講話を集中して拝聴いたしました

大塚雄士氏のご講話

左から相川氏、秋田谷氏、加藤氏、大塚氏
お一人ずつご感想を頂きました

自己紹介タイム

宮脇社長

工場見学1班
大塚氏に色々質問を致しました

工場見学2班
加藤氏のご説明を拝聴する利用者Yさん

最後はガッツポーズで記念撮影

5月20日、大阪市浪速区の宮脇鋼管株式会社様で企業見学会を開催いたしました。今年3月に開催したヒグチ鋼管株式会社の樋口社長よりご紹介を頂いての御縁です。自己紹介を終えた後、参加者は2班に分かれて工場見学へ。その後、大塚 雄士氏、宮脇社長からお話を頂きました。また、急遽特別に、障害者雇用で入社されている秋田谷氏からも貴重で学びあるお話を頂いております。

大塚氏は30年間の勤務を続けておられます。当時の現場は管理・品質の点で色々な問題が山積みで、そうした様々な問題をひとつずつ改善し、学びながら、全員で会社を作り上げて来られたそうです。「**人生も仕事も家族・人が中心にある**」というお考えのもと、コミュニケーションを重視しながら信頼関係を築いていく努力を続けられています。

続いてお話を聞けたのは、秋田谷氏です。働き始めてから2年ちょっとという秋田谷氏は、コンピュータによる図面・プログラム作成を担当しておられます。自身の経験を振り返りながら、「**就活は自分の強みと出来る事を深く理解して、自分の物差しを知る事が大切だと思います**」という言葉に、参加者も大いに共感する部分があったようです。

宮脇社長のお話に移りまして、御爺様から続く会社の歴史が語られました。御爺様は本当に節約家であったらしく、それを継がれた宮脇社長の御父様も倹約精神を大いに学ばれました。時代的にも鉄を中心としたあらゆる資源が貴重であった事から、資源を「**活かしきる**」という企業理念が生まれたと言います。「**人生は縁があるからこそ今がある**」と語る宮脇社長。行動をして縁を紡いで行けば、必ず次の展開が見えてくるのだと語られました。

この度、お忙しい中、本当に素晴らしい御縁とお話を頂き、たいへん有意義な機会となりました。誠に有り難うございました。

企業見学会

★次回開催★株式会社 季節の詩様　https://www.kisetsunouta.co.jp/

利用者紹介 Fさん

連載 トライアル雇用奮闘記 第２回
加光から就職へ
― ”頑張り過ぎ”がもたらしたもの ―

Fさんは就労支援を受ける前に精神症状の悪化を懸念していたため、主治医の紹介で生活訓練施設「加光」に入りました。また、加光からデイケアにも通いまして、段階を経て社会復帰しようという計画で物事が進みました。

計画が始まった当初、Fさんは「絶対に就職して、良い仕事をするぞ」という先の事ばかりを考えていました。その焦燥感が、後の挫折に繋がってしまったのかもしれません。

Fさんは加光入所から１年半が経過した段階で、就労を目指す「きょうばし」に通い始めました。最初は２時間の作業でも苦しいと感じていたのですが、「このままじゃダメだ！とにかく前に進まないといけない！」という焦りがFさんを突き動かしていました。

その後、Fさんのチャレンジと献身的な支援者の熱意によって、チャンスが訪れます。商品の検品と陳列の仕事に3年間従事することになりました。しかし、「４，５時間ではなく、フルタイムで働きたい」という想いから、自分の可能性を見出だせる職に就く決意をします。

Fさんは「きょうばし」に一旦戻って経験を積みます。そして、２度目のチャンスが訪れます。内外のサポートを通じて、某運輸倉庫様の本採用へと駒を進めました。ここでも３年間、懸命に頑張りました。しかし、頑張り過ぎたのです。

天井クレーンを操作するＦさん

朝６時起床・夜９時帰宅で、週末も残業が入る事もあり、自分の生活時間が削られる中で、Fさんは非常に重苦しい圧迫感に耐えられなくなりました。そして疲れ果て、心が折れてしまった時、Fさんは前へ進む事が出来なくなりました。（次号へ続く）

きょうばし卒業生の会 Thyme

Thymeのキーコンセプトは「学ぶ・楽しむ・伝える」3つ。
遊歩道クリーン活動
継続参加の声と共に

「一日一善！」きょうばし卒業生Mさんの大号令に始まり、Thymeメンバーと現利用者さん、職員、地域の方々が一丸となって、額に汗しながら終始笑顔の約2時間でした。「社会活動ってなかなか参加するタイミングないからね」と、継続参加を宣言する人も沢山いました。

次回のThymeは
6月18日（金）
「堺コンビナートの夜景を
ナイトクルーズで楽しむ」企画です。